

「己を知れば邪心なし」の精神で世界に冠たる医療系総合大学を目指す

私は、本学の医学部を卒業して45年間、呼吸器学を専門に、教育・研究・臨床に邁進してきました。2014年度から本学の第11代学長に就任することとなり、大変光栄に思っております。新学長としては、まず大山喬史学長が推進されてきた第2期中期目標・計画を完遂した上で、私の目指す第3期中期目標・計画を策定していきます。

本学には、大山先生が築かれた「知と癒しの匠を創造する」という素晴らしいミッションがあります。ここでいう「知」とは、医療人に必要な知識や技術、アイデンティティを指し、「癒し」は教養、感性、多様性を受け入れるコミュニケーション能力を指します。これからの本学に求められる使命は、大山先生が育成された「知と癒しの匠」である医療人を、日本国内、そして世界に展開していくことです。それこそが、世界の医療系大学をリードする本学の未来の姿につながるかと確信しています。

そのためには、教職員の方々の愛校心ある行動が欠かせません。本学の未来の姿を全員で共有しながら、各人の職務の中で積極的に企画提案や多くの意見を出していただきたいと思います。大学執行部では、人的資源、物的資源の一括管理などの環境整備も進め、ガバナンス面においてもより一層の強化を深める考えです。こうした計画に沿って、人材の育成、戦略的な研究体制の確立、国際化などに対応していきます。

人材育成では、相手の心を理解した上で、専門家としての助言ができる医療人を養成したいと考えています。「課題を与えて解決させる」教育ではなく、「自ら課題を見つけ出し、解決方法を考えられる」ように教育を強化していく計画です。

研究面は、研究大学強化促進事業の採択に基づく研究体制の拡充のため、医師主導型治験体制の整備や、産業界との連携を図っていきます。

国際化については、大山先生も積極的に推し進められており、海外拠点でも教育研究活動が行われています。今後は、外国人教員や研究者の増員を図り、国際共同研究や国際共同治験なども視野に入れて進めていきたいと思っています。さらに、本学の拠点がある地域以外の東南アジアや南米地域にも歯学教育カリキュラムを輸出できるように努めます。

連携病院との協力はもちろんですが、本学周辺の開業医の方々との連携をはじめとした地域医療への貢献、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでの本学の強みを活かした協力なども重要な課題です。

私のモットーである「積極思考で全力を尽くす」「己を知れば邪心なし」の精神で邁進しながら、教職員、学生、患者さんとともに本学を愛する心を育てながら、世界に冠たる医療系総合大学を目指していきたいと考えています。

吉澤靖之

よしざわ やすゆき

1969年東京医科歯科大学医学部卒業、医学博士。70年同大学医学部副手（現在の研修医）、72年東京通信病院医師、77年米国イリノイ大学客員研究員、78年米国ウィスコンシン医科大学客員研究員、79年同大学客員教授、80年東京通信病院医師、84年筑波大学臨床医学系講師、86年同大学助教授、93年東京医科歯科大学医学部助教授、98年同大学医学部附属病院教授、99年同病院長補佐、2002年同大学保健管理センター長、04年同大学医学部附属病院副院長、08年同大学理事を経て14年4月より同大学第11代学長。

